

トマトの微生物農薬活用によるコナジラミ類防除の改善

1 普及活動のねらい

トマト栽培において、コナジラミ類は黄化葉巻病の媒介や果実着色不良などの被害を引き起こすが、薬剤感受性の低下から防除が困難となっている。

ボーベリア バシアーナ水和剤（商品名「ボタニガード水和剤」）は、使用方法に「ダクト内投入」があり、省力的な散布処理ができる。効果的な防除方法としてコナジラミ類防除の改善に向けた活用を推進した。

2 普及活動の成果

今年度作は高温傾向からハウス外からのコナジラミ類の飛び込みが多く推移したが、いずれの実証ほでも厳寒期までにコナジラミ類を防除できた。いずれの実証農家も、化学合成農薬の感受性が低下している現状を踏まえ、化学合成農薬を補う効果を認めた。ダクト内投入で、春先の繁忙期に省力的な防除ができる点も評価した。

部会内で対象の複数農家が防除効果を認識したことで、活用が進む見込みである。

3 普及活動の内容

微生物農薬は、一般的な化学合成農薬に比べて効果発現が遅いこと、微生物の活動がほ場条件に影響されることなどから、生産者に「効かない」という印象をもたられていることが多い。微生物農薬の特性については、事前に十分な理解を得るよう、作成資料による丁寧な説明に努めた。

ハウス内のモニタリングデータを用い、効果発現に適する春秋期を軸に防除を実施すること、特に繁忙期となる春にダクト内投入が適することを軸に、実証計画を設定した。

定期的なコナジラミ類の頭数調査を行うとともに、コナジラミ類のハウス内分布から侵入や防除状況を評価し、コナジラミ密度が高い条件で組み合わせる殺虫剤の選択などについて助言を行った。

若手研究会で実証ほの結果を確認し、部会の全体会での報告で実証成果のPRを行った。



写真 送風ダクト

重点課題名	3 スマート農業技術の活用による野菜産地の育成
普及事項名	(5) トマトの微生物農薬活用によるコナジラミ類防除の改善